

第5章 地域づくりの方向

県内の各地域は、特色ある資源や独自の産業などそれぞれ異なる特性を持っています。島根の総合的な発展のためには、各地域地域の個性や特徴に一層の磨きをかけることを通して、地域の存在価値や魅力を最大限に活かした取組みを進めていくことが必要です。

この章では、まず島根の新しい発展の原動力となる産業の振興と地域経済の活性化に焦点を当て、複眼的な視点から地域ごとの発展の方向を示すこととします。

まず、経済活動を捉える上では、県境を越えた広域的な視点での考察が不可欠であることから、東西2つのエリアを設定し、中国地方や中四国地方といった広域的な視点から俯瞰する形で検証を行います。

次に、県内の各地域地域の有する資源等をより詳細に分析し、その強みを活かした産業振興の方向を明らかにするために、県内を7つの圏域で捉えることとします。

また、県内の中山間地域においては、多様な知恵と力を結集して諸課題を克服していくことが喫緊の課題となっています。このため、特定テーマとして、中山間地域におけるこれからの取組みや、この地域の活性化に向けた方向を明らかにすることとします。

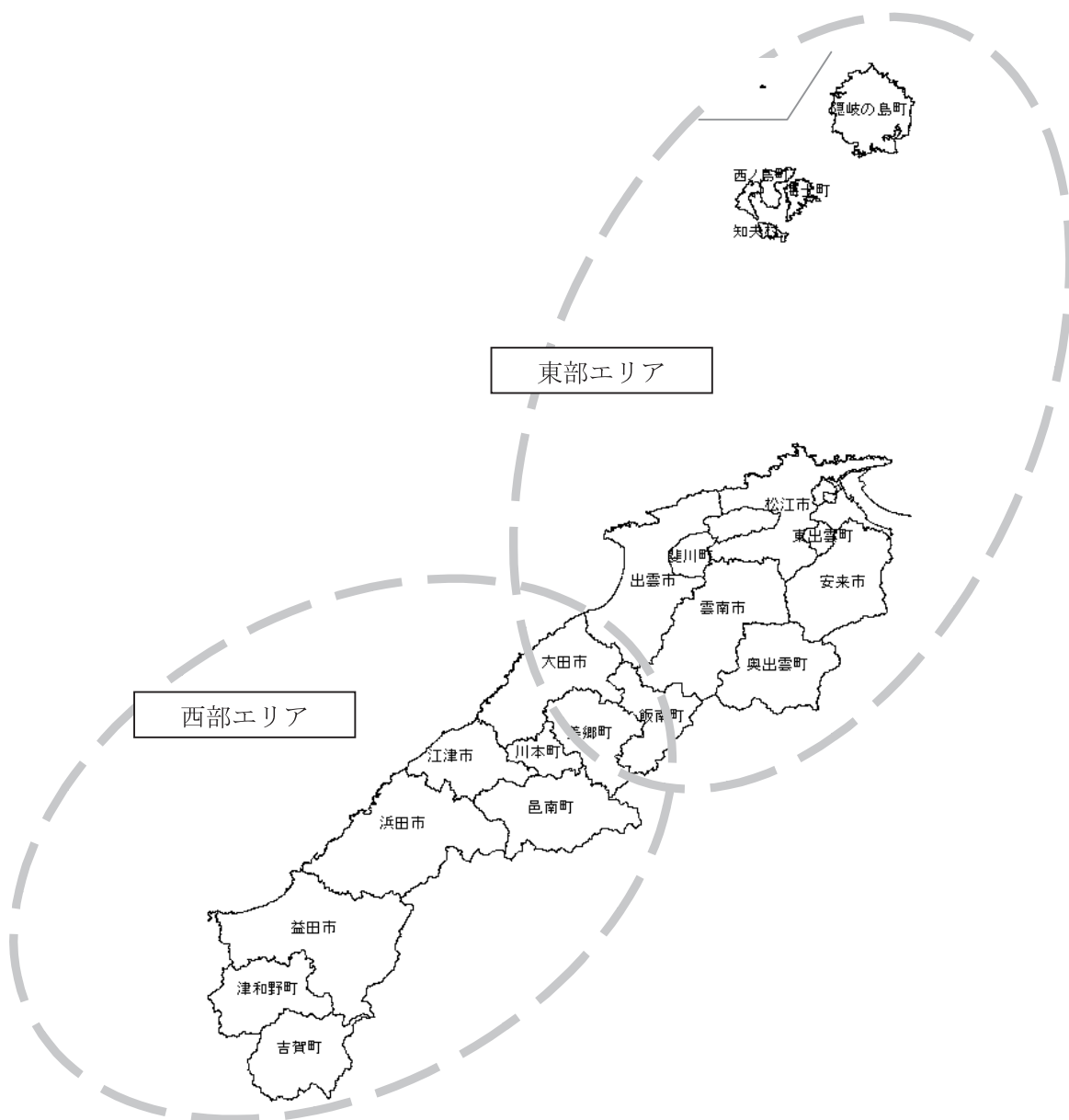
なお、このようなエリアや圏域の設定は、地域の個性や特徴を分析する上での便宜的なものであり、実際の施策の展開にあたっては、広域的な視点を持ち、弾力的に対応する必要があります。

1. 東西エリア別の発展方向

情報通信技術の発達等に伴い、人々の暮らしや経済活動は広域化し、また連携や交流も進みつつあります。このため、東西に細長く、隠岐諸島を有する県土の特性や、県内の高速交通体系の整備状況等も勘案しながら、広い視点に立った産業振興・地域経済活性化の方向を共有する必要があります。

県内をはじめ、県境を越えて活動する様々な主体による相互理解や共同の取組みを推進するとともに、柔軟に施策を展開していく上での一つの地域区分として、2つのエリアを設定することとします。

2つのエリア図



東部エリアの発展の方向

(1) 特性

- ・東部エリアは、宍道湖、中海、神西湖、美しい海岸線、雄大な景観を有する隠岐・大山など豊かな自然や、出雲神話などの特有の歴史・文化を有する地域です。
- ・中海・宍道湖圏域は、島根県と鳥取県のほぼ中央に位置し、60 万人余の人口を有し、日本海側でも新潟や金沢などと並んで有数の人口・産業が集積している地域です。
- ・出雲空港、隠岐空港、米子空港の3つの空港や国際貿易港である境港を有しています。また、米子自動車道により全国の高速道路ネットワークにつながっていると同時に、山陰自動車道や中国横断自動車道尾道松江線の整備が進みつつあるなど、交通機能の利便性が高い地域です。
- ・鳥取県との県境をつなぐ江島大橋が平成 16 年に開通しました。県道の大海崎バイパスや国道 431 号川津バイパスの整備も進み、産業や観光などの分野で県境を越えた連携が活発化しています。

(2) 発展の方向

<ものづくり・IT 産業の振興>

- ・特殊鋼、一般機械器具、電子部品・デバイス、輸送用機械器具などの機械金属系製造業を中心とした産業が集積しています。これらの企業の経営・技術革新を支援することなどにより、さらなる集積と事業の高度化を目指します。
- ・IT 産業については、県内企業の育成・支援や県外企業の誘致、人材の確保・育成を進めることにより、ソフト系 IT 企業の振興を図ります。
- ・高速道路・空港・港湾等の交通基盤、良好な住環境、豊富な企業用地などの地域の強みを最大限に活かした戦略的な企業誘致を進めます。
- ・隣県の企業情報を多く有する地元金融機関や他県の産業支援機関等との連携を深め、県内企業の販路や資材・部品の受発注先の拡大を図ります。
- ・急速な経済発展を遂げる北東アジア地域の大陸部に比較的近い地理的特性などを活かし、海外の新たな市場の開拓を促進します。

<自然が育む資源を活かした産業の振興>

- ・平野部における大規模農業、離島や山間地における特色ある米づくりや和牛の生産など、それぞれの地域特性に応じた農業振興を図るとともに、地域ブランドの確立を目指します。
- ・豊富な人工林資源を地域の木材加工施設等へ供給する取組みを進め、消費拡大を軸とした林業展開を目指します。
- ・隠岐近海をはじめとする日本海の豊富な水産資源を活かし、認証制度や鮮度保

持技術の活用などにより、水産物の高付加価値化に取り組みます。また、宍道湖・中海での環境保全型の漁業振興を図ります。

<観光の振興>

- ・豊富な観光資源を活かし、隠岐と本土、沿岸部と山間部など圏域相互間の広域観光や、石見銀山遺跡の世界遺産への登録を契機にした県西部エリアとの連携、さらには鳥取県や広島県を含めた広域的な周遊観光を推進します。
- ・民間経済界が中心となって「中海・宍道湖・大山圏域観光連携事業推進協議会」が設立され、観光ポータルサイトの開設による一体的な情報発信が行われています。さらに、水上遊覧船の実験運航、温泉地・医療施設・美術館巡りなど滞在型の余暇活動推進、体験型観光など産業観光ネットワーク化など、広域的な観光連携に向けた戦略的な取り組みが始まっており、今後さらなる連携を進めます。
- ・島根・鳥取両県の観光関係団体などで「山陰国際観光協議会」を設立し、外国人観光客誘致に取り組んでおり、主に韓国、台湾、中国、欧米を中心にさらなる誘客を目指します。
- ・広域的な観光連携を進める上で、県境を挟んだバス路線などの二次交通の不備がネックになっており、観光施設間のアクセスが向上するよう二次交通の確保に努めます。
- ・米子ーソウル便の利用者拡大と増便による利便性向上、また、出雲ー上海チャーター便の利用促進について、両県が共同して取り組みます。

<産業基盤の維持・整備>

- ・隠岐と本土を結ぶ航路と航空路線は観光振興や住民生活にとって重要であり、航路の維持・改善や空港の利用促進に取り組みます。
- ・広島経済圏と県東部エリアを結ぶ中国横断自動車道尾道松江線や山陰自動車道は、企業活動や観光振興にとって重要であり、早期整備に取り組みます。

西部エリアの発展の方向

(1) 特性

- ・西部エリアは、変化に富んだ美しい海岸線、江の川、高津川などの河川、三瓶山などの豊かな自然や、石見神楽など特有の文化を有する地域です。
- ・北東アジア地域の発展に伴って経済が拡大している広島、北九州、福岡などの大都市に近いという地理的に有利な条件を持っています。浜田自動車道、中国縦貫自動車道（六日市インターチェンジ）が整備され、これらの沿線は都市へのアクセスの利便性が高い地域です。
- ・国際貿易港である浜田港、東京・関西圏と結ぶ萩・石見空港を有しています。

(2) 発展の方向

<ものづくり産業・貿易の振興>

- ・瓦産業をはじめとする地場産業については、経営基盤の強化に取り組むとともに、市場のニーズに応える製品づくりを進め、新たな市場への進出を図ります。
- ・豊かな自然に恵まれた良好な住環境、豊富な企業用地などの地域の強みを最大限に活かした戦略的な企業誘致を進めるとともに、既存誘致企業へのフォローアップ強化と関連する産業の育成に取り組みます。
- ・隣県の企業情報を多く有する地元金融機関や他県の産業支援機関等との連携を深め、県内企業の販路や資材・部品の受発注先の拡大を図ります。
- ・北東アジアの大陸部の対岸に位置する浜田港は、対岸諸国に向けて正面玄関に相当する地理的優位性を持っています。貿易取引の増大による大きな発展の可能性を有していることから、さらなる利活用の促進に取り組めます。

<自然が育む資源を活かした産業の振興>

- ・有機・エコロジー農業による農産物や、どんちっち三魚・アユなどの水産物をはじめとする特色ある産品について、質の向上とマーケティングの強化を図り、地域ブランドの確立を目指します。
- ・豊富な人工林資源を地域の木材加工施設等へ供給する取組みを進めるとともに、浜田港を活用した販路の拡大を図ります。
- ・水産加工をはじめとする食品加工業の集積と地域の豊かな農林水産資源を活かし、地元の素材の利用促進、販路の拡大に取り組むとともに、健康食品や機能性食品などのより付加価値の高い分野への進出を図ります。

<観光の振興>

- ・石見銀山遺跡の世界遺産登録に伴って増加している来訪者を石見地域全体で受け入れる体勢づくりを進め、地域経済の活性化につなげるのが重要です。宿泊機能の充実や地域資源を活用したみやげ物や「食」を提供することなどによ

り、来訪者の満足度を高め、観光消費額を増やす取組みを進めます。また、石見銀山遺跡を総合的に案内するガイドの養成や起業・新商品の開発など、新たなビジネス展開を目指します。

- ・ストーリー性のあるテーマを情報発信するなど、県東部エリアとの連携を進めるとともに、山口県や広島県を含めた広域的な周遊観光を推進し、併せて二次交通などのネットワーク整備を進めます。
- ・地域の自然、風土、歴史、文化に触れ、地域の人たちとの交流を楽しむ新たな旅行スタイルに関心を持つ人が増えており、都市住民との農山漁村等での体験交流が盛んになっています。こうした都市との交流事業を地域経済の活性化に結びつける取組みを進めます。

<産業基盤の維持・整備>

- ・萩・石見空港は西部エリアの空の玄関として、観光や企業誘致など西部エリア全体の経済活性化に活かせるよう、路線の維持・充実に取り組みます。
- ・県西部エリアと山口・九州経済圏や県東部エリアとを結ぶ山陰自動車道は、企業活動や観光振興にとって重要であり、早期整備に取り組みます。

<その他>

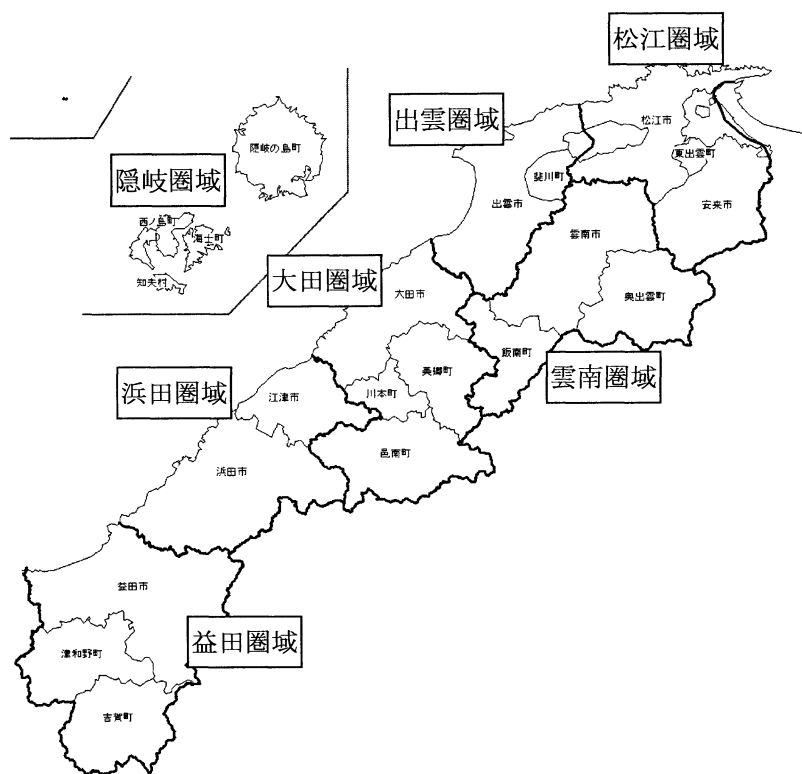
- ・旭インターチェンジの隣接地に建設中の矯正施設「島根あさひ社会復帰促進センター」は、平成20年10月に収容が開始される予定です。この施設では、近隣農家への支援や森林管理作業による職業訓練が計画されているほか、構造改革特区制度を活用した業務の大幅な民間委託も実施されることになっています。本施設の開設により、国・PFI事業者の職員及び家族なども含めると約3,000人の人口増加が見込まれています。食材の供給など新たな需要を生み出すことが期待されているほか、地元雇用や刑務作業での地元活用など「地域との共生」を目指すことなどにより、ビジネスチャンスのさらなる拡大に取り組みます。

2. 圏域別の発展方向

県内のそれぞれの地域が持つ優れた価値と潜在能力を、さらに詳細に見極め、その特性を活かした産業振興の方向を示します。地域の区分にあたっては、様々な考え方がありますが、ここでは通勤圏等による経済的なまとまりや、これまで取り組んできた広域行政などを勘案し、7つの広域市町村圏の単位とします。

なお、グローバル化している社会経済状況のもとで、7圏域を自己完結的に捉えるのではなく、圏域を越えた連携、また県境をも越えた広域連携の視点を持ちながら、弾力的に対応していく必要があります。

7つの圏域図



(1) 圏域の特性

- ・25万人余の人口を有し、県庁や国の機関、企業の本支店、文教施設などが集積する島根県の中核的な圏域です。また、鳥取県と県境を接し、60万人余の人口規模を有する中海・宍道湖圏域の中央に位置することから、山陰地方の中心的な役割が求められる圏域でもあります。
- ・ラムサール条約登録湿地の指定を受けた汽水湖である中海・宍道湖を有するとともに、宍道湖北山県立自然公園、大山・隠岐国立公園に指定されている島根半島や、水田地帯が美しい農村景観、緑豊かな山々など自然環境にも恵まれています。
- ・山陰自動車道や中国横断自動車道尾道松江線的高速道路網整備が進んでいます。また、出雲空港や米子空港、境港にも隣接しており、交通の利便性が高い地域です。
- ・ソフトビジネスパークなどが整備されており、利用可能な企業用地が豊富にあります。
- ・圏域の主な産業は、サービス業、商業、製造業であり、この3業種で所得の5割、雇用の6割以上を占めています。特に県都である松江市には様々な業態のサービス業や大規模小売店が存在しており、圏域内のみならず近隣圏域等の需要にも対応しています。また製造業では、安来市の鉄鋼や、東出雲町から松江市東部にかけての一般機械製造業、圏域全体にわたる食料品製造業などが中心となっています。
- ・農林水産業は、米を中心に、キャベツ、イチゴ、梨、柿などの農業、スギ・ヒノキなどの林業、宍道湖のしじみや日本海の魚介・海藻類等の水産業が営まれています。また、日本一の生産量を誇るぼたんは、輸出促進による新たな販路開拓が積極的に進められています。さらには、中海干拓地など大規模営農が可能な農地も存在しています。
- ・松江城周辺や風土記の丘周辺の史跡や景観、県立美術館、足立美術館、安来節演芸館など、歴史的・文化的要素の強い観光資源に恵まれています。また、夕景をはじめとし四季折々に表情を変える宍道湖や、玉造温泉、松江しんじ湖温泉などが存在することから、国際文化観光都市である松江市を中心に多くの観光客が訪れています。
- ・島根大学、島根県立大学（短期大学部）、松江工業高等専門学校、高等技術校、各種専修学校、高等学校などの教育・職業能力開発施設があります。
- ・上記のほか、主な地域資源としては「中小企業による地域産業資源を活用した事業活動の促進に関する法律」（以下、「地域資源活用促進法」という。）に基づき認定された次のものがあります。

和菓子、宍道湖七珍、ドジョウ、水産練り製品、雲州人参、八雲塗、出雲石

灯ろう、清水寺など

（２）各市町村の総合振興計画等における将来像

○松江市：「水と緑、歴史と教育を大切にし伸びゆく国際文化観光都市・松江」

松江市は、豊かな自然環境と共生した都市景観を大切にし、はるかな歴史を経て伝統や文化を守り育ててきました。また、人材育成に力を注ぎ、充実した教育環境をつくりあげてきました。この松江の特色に磨きをかけることにより、まちの魅力をさらに高め、観光産業をはじめとする地域産業を振興して新たな魅力を加え、世界に誇れる伸びゆく国際文化観光都市を目指します。

○安来市：「元気・いきいき・快適都市」

～水と緑と文化が調和する健康・交流のまち～

永い時と先人の叡智により醸成された財産を礎とし、健康な人々を育み、ひと・物・情報が活発に行き交う環境を整えることにより、新たな時代に即した多彩なコミュニティの形成、産業の振興、地域活力の創造に努め、すべてのひとが「元気」で「いきいき」と「快適」に暮らせる都市を目指します。

～中海圏の交流と発展 フロンティア都市やすぎ～

中海圏域の多角的な地域発展の基盤として期待が高まる「中海」を、この地域の共通資産として捉え、県境を越えた取組みとして、圏域の交流と発展の先導的役割を市民協働において果たすことにより、「中海圏の交流と発展 フロンティア都市やすぎ」を目指します。

○東出雲町：「ともに歩む心豊かなまち ～ひがしいずも創・育・伝～」

水と緑、個性あふれる地域文化に育まれ、充実した子育て支援施策や交通網、優良宅地整備、恵まれた立地条件を生かし大幅な人口の増加を果たした東出雲町は、機械加工や水産加工などを中心としたものづくりのまちとしても発展を続けてきました。そのような町の歩みをさらに進めるため、情報の共有やものづくり、教育・子育て・福祉の充実、中海圏域を基盤とした広域的な連携を一層推進し、さらなる創造と育成、地域の良さを伝承していくことで、住民の皆さんが誇りと自信をもてる心豊かで暮らしやすいまちづくりを目指します。

（３）発展の方向

＜ものづくり・IT産業の振興＞

- ・製造業、サービス業とも比較的集積の大きい圏域であり、鉄鋼、一般機械などの機械金属系製造業や情報産業、対事業所サービス業を中心に、新商品・新技術の開発や企業連携などにより産業の高付加価値化を進め、国内や海外などの域外市場との取引の拡大を目指します。
- ・自動車や航空機、エレクトロニクス製品等の重要部品として使用される特殊鋼

やプラズマ利用の先端技術等を活用した特色ある企業の集積と振興を図るとともに、機械金属加工や鋳物製造などの集積をベースにさらなる企業立地と事業の高度化を促進します。

- ・ IT 産業については、プログラミング言語 Ruby の活用をはじめ他地域に比べ優位性がある分野であり、IT 技術者の養成、新たなソフトウェア開発、販路拡大等への支援を行うことにより、ソフト系 IT 企業の業務拡大と、情報サービス業等関係企業の誘致を戦略的に進めます。
- ・ 企業間の交流や連携、地場企業の技術力の向上などを促進することにより、圏域内企業間の取引を拡大し、域内での経済循環を高めます。
- ・ 近隣に2つの空港を持つなど首都圏等へのアクセスの利便性、急速な経済発展を遂げる北東アジア地域の大陸部に比較的近い地理的特性、自然環境と都市空間が調和した良好な住環境、ソフトビジネスパークをはじめとした工業団地など、圏域の特色や資源を最大限に活かした戦略的な企業誘致を進めます。
- ・ 島根大学や松江工業高等専門学校などの高等教育機関の立地を活かして積極的に産学官連携を行い、企業における技術開発や製品開発等の取組みを地域一丸となって支援することにより、産業の高度化や新産業の創出を図ります。

＜自然が育む資源を活かした産業の振興＞

- ・ 県内最大の消費地の消費者ニーズを的確にとらえ、新鮮・安心な農林水産物や木材製品を安定供給するため、多様な生産・販売体制や流通基盤の整備、品質の向上に取り組みます。
- ・ 地域の代表的な特産物である米やキャベツ、イチゴ、ぼたん、梨、柿などについて、マーケティングに基づいた生産・販売体制の整備を行うとともに、生産基盤の改良、生産技術の高度化、販路の拡大を図ります。
- ・ 干拓地やほ場整備により大区画化された農地を活かし、健康食品や各種加工食品の原材料供給を目的とした大規模な契約栽培等の取組みを促進します。
- ・ 新たな農業生産技術や農産物の開発、木質資源の利活用などについて、島根大学など学術・研究機関との連携を進めます。
- ・ 宍道湖・中海等の地域の自然環境を保全し、安全な食料を安定的に生産するため、環境と調和した農業を展開するとともに、宍道湖・中海での環境保全型の漁業振興を図ります。
- ・ 森林組合、製材業者など木材供給者のほか、建築士や行政等も一体となって、住宅や公共施設等への圏域産木材の利用を推進します。
- ・ 宍道湖・中海・日本海など多様な水域と水産資源に恵まれていることから、高品質水産物の認証制度「しまね定置もん」等による水産物の高付加価値化に努め、漁業経営の安定化を図ります。
- ・ 豊かな農林水産資源を活用し、練り製品、生菓子、豆腐などの製造分野で、健康食品や機能性食品などより付加価値の高い食品関連産業の創出を促進しま

す。

<観光の振興>

- ・豊かな自然、文化、歴史などの豊富な観光資源の魅力をさらに高め、入り込み客数の増加を図ります。とりわけ、松江開府 400 年記念イベントの着実な取り組みや、世界遺産に登録された石見銀山遺跡、出雲大社に加えて鳥取県西部も含めた広域的な観光ルートの商品化など、他圏域の観光資源と連携することによって、滞在型の観光への転換を図り、観光消費額の増加を目指します。
- ・国内はもとより中国、台湾、韓国など海外からの観光需要の取り込みに努めます。

<産業基盤の維持・整備>

- ・企業活動を支え、観光振興を図る上で、広島経済圏とこの圏域を結ぶ中国横断自動車道尾道松江線、山陰自動車道、地域高規格道路「松江第五大橋道路」は重要であり、早期整備に取り組みます。また、隣接する圏域と一体となって出雲空港の路線の維持・充実に取り組みます。
- ・高速情報通信網など情報通信ネットワーク環境の整備を進めます。

（１）圏域の特性

- ・ 県東部に位置し、北部は島根半島、中央部は肥沃な出雲平野、南部は中国山地で構成され、「古代文化・神話の国」として、全国的な知名度を誇っています。
- ・ ラムサール条約登録湿地の指定を受けた汽水湖である宍道湖を有するとともに、宍道湖北山県立自然公園、大山・隠岐国立公園に指定されている島根半島や、水田地帯が美しい農村景観、緑豊かな山々など自然環境にも恵まれています。
- ・ 平成 19 年 12 月に国道 9 号出雲バイパスが開通するとともに、山陰自動車道や中国横断自動車道尾道松江線の高速度道路網整備が進んでいます。また、圏域内には出雲空港を有しているとともに、米子空港や境港にも近く、交通の利便性が高い地域です。
- ・ 複数の工業団地があり、誘致企業を中心に製造業の集積が進んでおり、製造品出荷額は県内 7 圏域の中で最も大きくなっています。特に、情報通信機械器具、電子部品・デバイスなどの業種の出荷額が大きな比重を占めています。
- ・ 農業については、県内最大の穀倉地帯である肥沃な出雲平野を中心に、海岸部の砂丘地帯及び中山間地域を併せ持つなど、多様な農業生産形態をなしており、県農業の牽引役となっています。
- ・ 林業については、人工林を中心に森林資源が利用期を迎えつつあります。
- ・ 定置網を基幹漁業として沿岸漁業が広く営まれており、アカアマダイ、ブリ、十六島のりなどの県を代表する優れた水産物が水揚げされています。
- ・ 独自の伝統と歴史・文化などの多くの観光資源を有し、中でも、国際級の観光資源である出雲大社は、集客の広域性やリピーターの多さで圏域の観光の中核となっています。隣接して古代出雲歴史博物館が開館し、新たな集客拠点としての展開が期待されています。
- ・ 島根大学（医学部）、島根県立大学（短期大学部）、高等技術校、各種専修学校、高等学校などの教育・職業能力開発施設があります。
- ・ 県内の医療の拠点として、山陰有数の高度医療機関の集積があります。
- ・ 上記のほか、主な地域資源としては「地域資源活用促進法」に基づき認定された次のものがあります。

そば、ひわまり、西浜いも、デラウェア、いちじく、西条柿、ワイン、福こづち、出雲一刀彫、荒神谷遺跡、日御碕、神西湖、一畑薬師など

（２）各市町村の総合振興計画等における将来像

○出雲市：「西部日本海域の中心都市」

豊かで多様な地域特性を十分に発揮、集結し、21 世紀初頭の激しい地域間競争を勝ち抜く“産業の力”、“都市の力”、そして“文化の力”を培うことにより、兵庫から山口に至る西部日本海域に燦然と輝く中心都市を目指します。

○斐川町：「明るく創造的なまち、人が主役の斐川町」

- ・くらしの夢づくり
- ・くらしの安心づくり
- ・くらしの体力づくり
- ・くらしの知力づくり

（３）発展の方向

＜ものづくり・IT産業の振興＞

- ・製造業、サービス業とも比較的集積の大きい圏域であり、新商品・新技術の開発や企業連携などにより産業の高付加価値化を進め、国内や海外などの域外市場との取引の拡大を目指します。
- ・企業間の交流や連携、地場企業の技術力の向上などを促進することにより、圏域内企業間の取引を拡大し、域内での経済循環を高めます。
- ・機械金属加工や鋳物製造などの集積をベースにさらに自動車部品加工、産業機械製造などの立地と事業の高度化を促進します。
- ・電子部品や情報通信機器等の製造企業及び関連産業の立地を踏まえ、情報サービス業やIT関連産業の立地と事業の高度化を促進します。
- ・整備が進みつつある山陰自動車道や河下港、出雲空港など陸海空によるアクセスの利便性、急速な経済発展を遂げる北東アジア地域に比較的近い地理的特性、自然環境と都市空間が調和した良好な住環境など、圏域の特色や資源を最大限に活かした戦略的な企業誘致を進めます。特に、医療、福祉、IT関連、研究開発型の企業などの集積を図ります。
- ・風力発電、木質バイオマス、水素利用など新エネルギー関連産業の集積を図ります。
- ・高度医療機関の集積を活かして、産学官連携による研究開発を進め、医療・福祉分野における新たな製品・サービスの開発に取り組みます。

＜自然が育む資源を活かした産業の振興＞

- ・島根をリードする先進的な農業の維持・発展に向けて、出雲平野のスケールメリットを活かした省力低コスト生産等により競争力のある農業の展開を図ります。
- ・米のほか、排水改良による水田の畑作利用を進め、大豆や麦などの土地利用型作物を振興します。また、ロットの大きい園芸品目や畜産物について、消費者の視点に立った売れるものづくりを推進し、消費地から信頼される産地づくりを目指します。
- ・観光客や都市部消費者との交流を一層活発化し、直売や体験農園などの観光農業の積極的拡大を図ります。

- ・品質・性能が明確な地域木材製品が安定的に供給できるよう、乾燥木材の供給力を高めるとともに、JAS 認定取得の取組みを進めます。
- ・高品質な高級魚介類等が漁獲される地域漁業の特性を活かし、鮮度保持や衛生管理技術の高度化等による水産物の付加価値向上に取り組むとともに、地域特産品である十六島のりや板ワカメ等の水産加工の振興に努めます。
- ・食品加工業が多く集積している地域であり、豊かな農林水産資源を活用し、練り製品、しょうゆ、清酒などの製造分野で、健康食品や機能性食品などより付加価値の高い食品関連産業の創出を促進します。

＜観光の振興＞

- ・旧暦の 10 月を全国で唯一「神在月」と呼ぶこの地方の特色を活かし、古代出雲文化を発信し、さらなる誘客の推進を図り、交流人口の拡大に努めます。
- ・古代出雲歴史博物館の開館や石見銀山遺跡の世界遺産登録などを契機にして、隣接する県内他圏域との連携や、鳥取県西部を含めた広域的な周遊観光を推進します。
- ・観光産業を起点とした地域の経済循環の強化を図るため、地元の農業、食品加工業等と連携し、地域資源活用型の製品・サービス開発を促進します。
- ・国内はもとより台湾や韓国など海外からの観光需要の取り込みに努めます。

＜産業基盤の維持・整備＞

- ・企業活動を支え、観光振興を図る上で、広島経済圏とこの圏域を結ぶ中国横断自動車道尾道松江線や山陰自動車道は重要であり、早期整備に取り組めます。また、河下港の整備や出雲空港の路線の維持・充実に取り組めます。
- ・高速情報通信網など情報通信ネットワーク環境の整備を進めます。

雲南圏域の発展の方向

(1) 圏域の特性

- ・ 山陰と山陽の物流・経済交流の動脈である国道 54 号が圏域の中心を貫き、南部は広島県、北部は松江圏域、出雲圏域に接しています。
- ・ 中国横断自動車道尾道松江線は、平成 15 年 3 月に宍道インターチェンジから三刀屋木次インターチェンジまでの間が供用開始となり、平成 20 年代には三次市まで開通する予定になっています。これにより全国の高速道路ネットワークにつながることで、山陽・関西方面との時間距離も大幅に短縮されます。
- ・ 誘致企業を中心に、一般機械、電気機械製造業等の集積が進んでいます。近年、工場の新増設も見られ、雇用の場を確保し、地域経済を支える上で大きな役割を担っています。
- ・ 三刀屋木次インターチェンジ周辺の国道 54 号沿いに商業集積が見られます。
- ・ 立地条件を活かして、農業は水稻と和牛を中心に展開されています。水稻については仁多米など売れる米づくりが進められています。和牛については「奥出雲和牛」ブランドとして、地域内一貫生産に向けた取組みが進められています。また、有機農業への先駆的な取組みや、味噌、醤油などの農産加工、道の駅等の産直市での販売など、特徴的な取組みが行われています。
- ・ 圏域の人工林資源は県内で最も豊富であり、スギ人工林を中心として順次利用期を迎えつつあります。
- ・ 桜、ホタルなどの豊かな自然、ヤマタノオロチ伝説などの神話、加茂岩倉遺跡、温泉などの観光資源に恵まれています。また、古代出雲歴史博物館と加茂岩倉遺跡を結ぶ古代ルート、安来市・奥出雲町・雲南市を結ぶ鉄のルートなど、広域的に展開するルートもあります。
- ・ 各種専修学校、高等学校などの教育・職業能力開発施設があります。
- ・ 上記のほか、主な地域資源としては「地域資源活用促進法」に基づき認定された次のものがあります。
 - 卵かけご飯醤油、乳製品、ヤマトイモ、くま笹、くり、ワイン、たたら製鉄、雲州そろばん、木工芸品、鬼の舌震、島根県民の森など

(2) 各市町村の総合振興計画等における将来像

○雲南市：「^{いのち}生命と神話が息づく新しい日本のふるさとづくり」

『5つの恵み』のあるふるさと

- ・ 笑顔あふれる地域の絆
- ・ 世代がふれあう家族の暮らし
- ・ 美しい農山村の風景
- ・ 多彩な歴史遺産
- ・ 新鮮で安全な食と農

○奥出雲町：「心豊かで潤いと活力のあるまちづくり」 ※新町建設計画

- ・人を大切にする心豊かなまちづくり
- ・潤いのあるまちづくり
- ・地域産業が輝くまちづくり
- ・ふれあいと交流のあるまちづくり

○飯南町：「小さな^{まち}田舎からの「生命地域」宣言 “いのち彩る里 飯南町”」

- ①豊かな自然を活かしたまち
- ②安心して暮らせるまち
- ③住民の参画によって育てるまち

（３）発展の方向

＜ものづくり産業の振興＞

- ・既存の機械金属加工や電気機械製造などの集積をベースにさらに自動車部品加工、産業機械製造などの立地と事業の高度化を促進します。
- ・地場系企業については、営業面・技術面の強化と、誘致企業との連携の推進に取り組みます。
- ・中国横断自動車道尾道松江線のインターチェンジや、山陽と結ぶ国道 54 号、出雲空港へも近いなどの有利な立地条件を活かし、企業誘致の推進に取り組みます。

＜自然が育む資源を活かした産業の振興＞

- ・認知度を高めつつある地域ブランド「奥出雲」について、さらにブランド力を育成し、消費者を意識した品目ごとの生産活動への積極的な取組みを推進します。また、生産活動を支える基盤の整備を推進します。
- ・中国横断自動車道尾道松江線の開通により、交流人口の拡大が予想されることから、産直施設、レストラン等における農産物の販路拡大や都市農村交流の促進に取り組みます。
- ・豊かな農林水産資源を活用し、クマザサエキスサプリメント製造などの分野で、健康食品や機能性食品などより付加価値の高い食品関連産業の創出を促進します。
- ・スギを中心とした木材の安定供給や菌床しいたけ生産など、豊富な森林資源の有効活用を取組みを進めます。

＜観光の振興＞

- ・恵まれた自然、神話、文化、食などの地域資源を活かしながら、体験型・滞在型観光を推進します。

- ・石見銀山遺跡の世界遺産登録や古代出雲歴史博物館の開館などを契機として、隣接する県内他圏域との連携や、広島県・鳥取県西部との連携を進め、広域的な周遊観光を推進します。
- ・雲南を舞台にして制作された映画を通じて、地域の魅力を県内外に幅広くアピールすることにより、地域ブランドの育成、観光の振興を図ります。

<産業基盤の維持・整備>

- ・企業活動を支え、観光振興を図る上で、中国横断自動車道尾道松江線は重要であり、早期整備に取り組みます。
- ・高速情報通信網など情報通信ネットワーク環境の整備を進めます。

<その他>

- ・森林のもつ心身の癒し効果を健康増進に役立てる「森林セラピー」を活用した産業振興を図ります。

(1) 圏域の特性

- ・ 県のほぼ中央部に位置し、圏域の北東に三瓶山、南部には中国山地を擁し、森林原野が大部分を占めています。圏域の中央部を中国地方最大の河川である江の川が流れています。
- ・ 出雲地域と石見地域の接点にあたり、人・物の交流が盛んです。
- ・ 古くから山陰山陽を結ぶ要衝となっている圏域の南部は、瑞穂 IC から浜田自動車道にアクセスできます。
- ・ 山陰自動車道については、仁摩温泉津道路が平成 16 年度から、多伎朝山道路が平成 18 年度から、朝山大田道路が平成 19 年度からそれぞれ事業着手され、整備が進みつつあります。
- ・ 珪砂、ゼオライトなどの地域特有の地下資源に恵まれているとともに、良質な粘土を利用した瓦産業などの伝統的地場産業が立地しています。
- ・ 製造業については、精密機器、医療器具、自動車部品関連などの分野において、特色のある企業が立地しています。
- ・ 三瓶山麓や南部高原地域など変化と起伏に富んだ地形条件を有しており、多彩で豊富な農林資源に恵まれるとともに、江の川や日本海の豊富な水産資源も有しています。
- ・ 農業の形態は、水稻を基幹作物に畜産、果樹、施設園芸等の複合経営です。南部高原地域では古来より稲作中心の農業が営まれ、昼夜の温度差も大きく、良質米の産地として高い評価を得ています。畜産については、全国的に見ても大規模な酪農経営が複数立地し、また三瓶山麓を中心に放牧にも取り組み、生産額は県内一となっています。
- ・ 森林率が約 85% と非常に高く、人工林は利用期を迎えつつあります。
- ・ 水産業は、小型底びき網、中型まき網、一本釣り延縄、定置網等の沿岸漁業を中心に営まれています。
- ・ 石見銀山遺跡がアジア初の鉱山遺跡として世界遺産に登録され、多くの観光客が訪れており、観光や地域振興の拠点として期待されています。
- ・ 世界遺産ゾーンのほか、国立公園三瓶山、鳴り砂の浜や美しい海岸線、江の川流域、南部高原地域、スキー場、温泉、三江線など様々な観光資源や、三瓶自然館（サヒメル）、小豆原埋没林公園、伝統芸能の石見神楽など、魅力ある地域資源が数多くあります。
- ・ 農業大学校、各種専修学校、高等学校などの教育・職業能力開発施設があります。
- ・ 邑智郡は従来から広島市の消費者などとの交流を行ってきており、山陽方面とのつながりが深い地域です。
- ・ 上記のほか、主な地域資源としては「地域資源活用促進法」に基づき認定され

た次のものがあります。

いちご、ブルーベリー、水産練り製品、さつまいも、エゴマ、大麦若葉、お
おち山くじら、バラ、福光石、鰻絵、仁摩サンドミュージアムなど

（２）各市町村の総合振興計画等における将来像

○大田市：「自然・歴史・ひとが光り輝く だれもが住みよい 県央の中核都市」
豊富な地域資源の価値を市民一人ひとりが再評価し、「魅力」「活力」「協力」
の『３つの力』の連携による地域資源のネットワーク化を図ることで、あらた
めて「大田市の魅力」を創造し、地域資源の効果的活用による新しいまちづく
りを目指します。

○川本町：「活力と潤いに満ちた ゆうあいの郷里^{さと} かわもと」
活気にあふれた産業など、賑わい（活力）に満ち、また、生活の様々な面で
人のつながりが多彩かつ自然に展開されるといったふれあいと心の豊かさに
満ち、U・I ターンをあたたく迎え入れる雰囲気にも満ちた、友愛の心にあふ
れるまちづくりを目指します。

○美郷町：「水と緑 いきいき輝く 夢あふれる協働のまち」
地域資源の象徴である水と緑を守りつつ、暮らしの様々な場面で積極的に活
用することでその価値や魅力を高めていくとともに、住民と行政の協働による
多彩な活動や交流、自然なふれあいや支え合いがひろがり、一人ひとりが、安
心のなかでいきいきと輝く夢あふれるまちづくりを目指します。

○邑南町：「夢響きあう 元気の郷づくり」
地域をつなぐ利便性の高い町（交通・情報通信網の整備）、地域資源を活か
した元気な産業の町（地域産業の活性化）、自然と共生の環境にやさしい町（安
全で快適な美しい生活環境）、こころ響きあい健やかに暮らす町（保健・医療・
福祉の充実）、いきいきと心豊かに学ぶ町（教育・人権・地域文化・生涯学習
の推進）、夢語る新コミュニティの町（住民主体）の６つをテーマ（将来像）
に、行政と町民が一体となったまちづくりを目指します。

（３）発展の方向

＜ものづくり産業の振興＞

- ・地場産業の育成については、新商品、新技術開発、販路の開拓等意欲的で先進
的な事業活動を誘引するため、関係機関との連携による支援体制の充実を図り
ます。
- ・産学官の連携を強化する中で、新技術を含め核となる技術を活かした新たな商
品、用途の研究に努めるとともに、新産業の創出及び産業集積を推進します。

- ・地域資源、技術を活用し、産業集積を目指した戦略的な企業誘致を推進するとともに、既存誘致企業へのフォローアップ強化と関連する産業の育成に取り組めます。
- ・瓦産業については、経営基盤の強化に取り組むとともに、住宅市場のニーズに応える製品づくりを進め、首都圏・海外等の新たな市場への進出を図ります。

<自然が育む資源を活かした産業の振興>

- ・自然が育む多彩で豊富な農林水産物を、地域への来訪者に対して生産者の顔の見える食材として提供するとともに、山陽側との近接性等を活かした販路の拡大やブランド化を図ります。
- ・大麦若葉、えごま等の機能性食品関連特産物や米を中心に有機・エコロジー農業を進め、健康や安全志向に向けた高付加価値化を図るとともに、「代官いも」等の地域特産物の6次産業化を進めます。
- ・遊休農地や林地等を活用した集落ぐるみの放牧を進めるとともに、堆肥を活用した仕組みを構築することにより、環境に配慮した耕畜一体となった農業生産体系を確立します。
- ・森林資源が利用期を迎えつつある中で、森林組合を中心として森林施業の集約化等を進め、需要に応じて供給できる仕組みの確立を図ります。
- ・基幹漁業である小型底びき網漁業等により漁獲される水産物の鮮度向上や高品質化により付加価値を高め、漁業経営の安定化を図ります。

<観光の振興>

- ・石見銀山遺跡の世界遺産登録に伴って増加する来訪者に対応するため、道路網の整備や広島と結ぶバス路線の改善など、アクセスの利便性の向上を図ります。また、来訪者を圏域全体で受け入れる体制づくりを進め、宿泊機能の充実や地域資源を活用したみやげ物や「食」を提供することにより、地域内での観光消費額の増加を目指します。
- ・石見銀山遺跡や三瓶山、香木の森公園、スキー場など、集客力のある拠点のネットワーク化により、滞在・周遊型の観光・交流を軸としたビジネスの創出・拡大を図ります。

<産業基盤の維持・整備>

- ・企業活動を支え、観光振興を図る上で、圏域内において順次事業着手されている山陰自動車道は重要であり、早期整備に取り組めます。
- ・高速情報通信網など情報通信ネットワーク環境の整備を進めます。

<その他>

- ・温泉資源や健康食材などを活用した健康増進、福祉などの新分野の育成・振興を図ります。

浜田圏域の発展の方向

(1) 圏域の特性

- ・北は日本海、南部は広島県に接し、東部には中国地方最大の一級河川江の川があり、沿岸地域、都市地域、農業地域、森林地域、レクリエーション地域など、多様性を持った地域です。
- ・人口、域内総生産額は、県内7圏域のなかで、松江、出雲圏域に次いで3番目に大きく、石見地域の中核的な位置を占めています。
- ・浜田自動車道は平成3年に開通し、平成15年には江津道路が供用になるなど、全国的高速道路ネットワークにつながっていると同時に、隣接する益田圏域には萩・石見空港があるなど、高速交通基盤が整備されています。
- ・浜田港は、北東アジアの大陸部の対岸に位置し、同大陸部の発展に伴って今後貿易額の増加が期待されます。また、県内唯一の国際貿易港であることから、県西部地域のみならず、本県の貿易振興の拠点としても期待されています。
- ・江津工業団地などが整備されており、利用可能な企業用地が豊富にあります。
- ・浜田市内には水産加工業が集積しており、特に干カレイは全国シェアの40%を超え、高いブランド力を有しています。
- ・石州瓦や石見焼といった古くからの地場産業があり、中でも石州瓦は瓦の三大産地のひとつとなっています。
- ・桑茶をはじめとする健康食品は、江の川沿いの流域市町で連携し、栽培・加工・販売の6次産業化に取り組んでいます。
- ・農業のうち、米については有機・エコロジー米など消費者ニーズに応える米づくりが進められています。園芸作物については、有機野菜のほか、新たな特産としてぶどう（ピオーネ）の生産量の増加が期待されています。
- ・林業については、人工林を中心に森林資源が成熟しつつあり、これを活用するため、林業・木材製造業関係者による協同組織が立ち上がっています。
- ・水産業については、日本有数の漁獲量と質を誇る浜田漁港を有し、特にアジ・カレイ・ノドグロは「どんちっち」としてブランド化に向けた取り組みが行われています。
- ・しまね海洋館（アクアス）、石見海浜公園、スキー場、ゴルフ場、温泉などの観光資源や、伝統芸能の石見神楽など、魅力ある地域資源が数多くあります。
- ・島根県立大学、島根職業能力開発短期大学校（ポリテクカレッジ島根）、高等技術校、各種専修学校、高等学校などの教育・職業能力開発施設があります。
- ・島根あさひ社会復帰促進センターの開設(平成20年10月予定)により、約3,000人の人口増加が見込まれるとともに、新たな雇用の創出など、地域経済への大きな効果が期待されています。
- ・上記のほか、主な地域資源としては「地域資源活用促進法」に基づき認定された次のものがあります。

なし、西条柿、金城の湧水、弥栄のどぶろく、石州和紙、石見神楽衣装・面・蛇胴、石見畳ヶ浦、世界こども美術館、石正美術館など

（２）各市町村の総合振興計画等における将来像

○浜田市：「青い海・緑の大地 人が輝き文化のかおるまち」

市民一人ひとりが海・山など素晴らしい自然を大切にし、先人から受け継いだ文化、伝統を守り育てるとともに、「交流拠点」という地域特性を活かしてまちに賑わいをもたらし、だれもが輝いて暮らせるまちをつくります。

○江津市：「元気！勇気！感動！ごうつ ～江の川が育むイキイキ協働体～」

美しい海・山、「江の川」と共生し、子どもたちの元気に遊ぶ声があふれ、高齢者のイキイキと元気に活動する姿が見えるまちをつくります。

（３）発展の方向

＜ものづくり産業・貿易の振興＞

- ・瓦産業については、経営基盤の強化に取り組むとともに、住宅市場のニーズに応える製品づくりを進め、首都圏・海外等の新たな市場への進出を図ります。
- ・機械金属加工などの集積をベースにさらに自動車部品加工、産業機械製造などの立地と事業の高度化を促進します。
- ・浜田港を利用した貿易を促進するため、国内外での積極的なポートセールスを展開するとともに、定期コンテナ航路の維持・拡大を目指します。また、ロシア極東地域への輸出を関係者と連携して支援することにより、浜田港のさらなる利用促進を図ります。

＜自然が育む資源を活かした産業の振興＞

- ・食品加工業が多く集積している地域であり、地元の農水産物を素材として供給するとともに、さらに付加価値を高めていく取組みを進めます。
- ・他地域に先駆けて取り組んできた有機野菜、有機・エコロジー米や、地域特性を活かした「どんちっち三魚」、ピオーネ、西条柿、原木しいたけなどの素材を、質の向上とマーケティングの強化により地域のブランドとして育て、販売競争力を高めます。また、品目に即した生産基盤や流通基盤の整備を推進します。
- ・圏域独自の「石州くんえん材」の需要拡大や粉炭製造などの木質バイオマス利用を促進します。
- ・豊かな農林水産資源を活用し、桑による食品製造などの分野で、健康食品や機能性食品などより付加価値の高い食品関連産業の創出を促進します。
- ・水産業については、基幹漁業である沖合底びき網やまき網、水産加工業の活性化、県外船による水産物の陸揚げ誘致など、地域が連携した総合的な取組みを

進めます。

- ・島根あさひ社会復帰促進センターの開設に向けて、食材を安定的に納入できる体制づくりを進めるとともに、刑務作業を農林水産業の活性化に活用していきます。

<観光の振興>

- ・豊かな自然を活かしたスキー、カヌー、サーフィンなどのスポーツや、温泉、石見神楽などの豊富な地域資源を活用した四季折々の周遊ルートの設定、石見銀山遺跡と連携した広域的な観光、体験・学習・交流など旅行者ニーズに応じた商品づくりを進め、交流人口の増大を図ります。また、地域の新鮮な海産物や有機・エコロジー農産物を活かした「食」の観光資源化に取り組みます。
- ・国内はもとより台湾や韓国など海外からの観光需要の取り込みに努めます。

<産業基盤の維持・整備>

- ・企業活動を支え、観光振興を図る上で、東西に向けての山陰自動車道は重要であり、早期整備に取り組みます。また、隣接する圏域と一体となって萩・石見空港の路線の維持・充実に取り組みます。
- ・高速情報通信網など情報通信ネットワーク環境の整備を進めます。

<その他>

- ・浜田港の臨海工業団地や浜田漁港瀬戸ヶ島地区の埋立地については、地域活性化につながる利活用を図ります。

（１）圏域の特性

- ・広島県、山口県と県境を接しており、古くから両県との社会的・経済的なつながりが強い地域です。また、アジアの発展に伴って経済が拡大している北九州とも近い距離にあります。
- ・圏域を流れる高津川は一級河川の水質ランキングで１位（平成 18 年）になるなど、清らかで豊かな自然に恵まれています。
- ・JR 山陰本線の高速化が実現するとともに、萩・石見空港、益田道路（一部区間）、中国縦貫自動車道（六日市インターチェンジ）などの交通基盤が整備されています。
- ・石見臨空ファクトリーパークが整備されており、利用可能な企業用地が豊富にあります。
- ・ゴム製品製造、プラスチック製品製造業等の誘致企業があり、地域の雇用確保に大きな役割を果たしています。中山間地域においても、自動車部品関連などの誘致企業が立地しています。
- ・農業のうち、米については「西いわみヘルシー元氣米」など売れる米づくりが進められています。園芸作物については、メロン、トマト、ぶどう、柿、わさびなどが栽培され、農業産出額の約 4 割を占めています。畜産については、農業産出額の約 4 割を占めており、大型畜産経営体の規模拡大などにより近年増加傾向にあります。
- ・林業については、人工林を中心に利用期を迎えつつあるとともに、圏域には古くから木材製造業の集積があります。
- ・利用期を迎えつつある豊富な森林資源があります。
- ・ダムのない清流高津川に育まれるアユは、品質においても全国的に高く評価されています。また、沿岸漁業においては、安定した漁業の経営基盤を確保するために、移動式小型定置網など漁獲効率の高い新規漁法の導入や砂浜域の水産資源の有効利用などの取組みが進められています。
- ・津和野は観光地として全国に認知されており、圏域の観光の中心となっています。
- ・津和野のほか、高津川、匹見峡等の豊かな自然、雪舟ゆかりの寺や石見神楽などの人文的資源に恵まれています。
- ・高等技術校、各種専修学校、高等学校などの教育・職業能力開発施設があります。
- ・益田市においては、芸術文化センター（グラントワ）の整備や駅前地区の再開発が行われ、圏域の中核としての機能が期待されています。
- ・上記のほか、主な地域資源としては「地域資源活用促進法」に基づき認定された次のものがあります。

ゆず、粉炭、木工品、鷺舞神事、大井谷棚田、水仙の群生地、太鼓谷稻成神社など

（２）各市町村の総合振興計画等における将来像

○益田市：「未来にむけ 一人ひとりが輝くまち」 ※新市建設計画

住民の自己実現を支援し、行政と住民の協働・連携によるまちづくりを推進するとともに、各地域が一体感を持ちながら、個性を活かした地域づくりを実践し、魅力あるまちづくりを目指します。

○津和野町：「人と自然に育まれ、温もりのある交流のまちづくり」

豊かな自然を活かすとともに、次代を担う人材の育成に努め、町民一人ひとりが生き甲斐を持って、豊かさを実感できるまちづくりを目指します。

○吉賀町：「自然の恵みに育まれ、人と共に生きる自立発展のまち」

高津川などの自然、まちづくりを担う人、産業の振興の３つを将来像実現のための基盤とします。

（３）発展の方向

＜ものづくり産業の振興＞

- ・ゴム製品、プラスチック製品製造業などの誘致企業が立地しており、企業間の交流や連携、地場企業の技術力の向上などを促進することにより、圏域内企業間の取引を拡大し、域内での経済循環を高めます。
- ・萩・石見空港、国営開発農用地などの圏域の資源を最大限に活かすことのできる企業の誘致など、戦略的な取組みを進めます。

＜自然が育む資源を活かした産業の振興＞

- ・森林に育まれたわさび・山菜、清流高津川のアユ、環境に優しい「西いわみヘルシー元氣米」、温暖な気候を活かした施設園芸作物、大規模経営による肉用牛など西石見らしい産物の生産振興を図り、国内外への幅広い販売戦略により、高津川流域産品のブランド確立を目指します。
- ・豊かな農林水産資源を活用し、ケール栽培による青汁生産、水耕トマトなどの分野で、健康食品や機能性食品などより付加価値の高い食品関連産業の創出を促進します。
- ・豊富な森林資源を活用し、需要に応じて木材を供給できる仕組みづくりを進めるとともに、乾燥材製品などの良質な製品を安定的に供給できる体制を構築することにより、「木を伐って使って植える」という循環型林業の流れを確立します。

＜観光の振興＞

- ・津和野など圏域内の観光資源と石見銀山遺跡など県内他圏域の観光資源との連携や、山口県・広島県との連携を進め、広域的な周遊観光を推進します。
- ・地域資源を活用した「食」の提供などにより魅力ある観光地づくりを進め、宿泊客数の増加など観光消費額の増加を目指します。

＜産業基盤の維持・整備＞

- ・企業活動を支え、観光振興を図る上で、山陰自動車道は重要であり、早期整備に取り組みます。また、隣接する圏域と一体となって萩・石見空港の路線の維持・充実に取り組みます。
- ・高速情報通信網など情報通信ネットワーク環境の整備を進めます。

隠岐圏域の発展の方向

(1) 圏域の特性

- ・ 国境の島として、我が国の領域、排他的経済水域の保全等において極めて大きな存在価値を有しています。
- ・ 2,000メートルの滑走路を持つ隠岐空港を有しているほか、隠岐・本土間には、超高速船1隻とフェリー3隻が就航しています。
- ・ 島前3町村には内航船2隻が就航し、3島間の人、物の輸送を行っています。
- ・ 隠岐で産出される良質の岩石は建設資材として海上輸送により島外へ移出されています。
- ・ 近年、海産物の加工や海水を使用した自然塩の製造が新たに始まっています。
- ・ 海水を活用した藻塩米の生産や、放牧地を活用した肉用牛生産など、付加価値の高い製品の島外への販売が積極的に進められています。
- ・ 島後地域のスギやクヌギなど利用期を迎えている森林資源が豊富にあり、販路拡大に向けた島外出荷も行われています。
- ・ 水産業については、日本海有数の豊かな漁場に恵まれており、まき網漁業、ズワイガニ・エッチュウバイ（白バイ）等のかご漁業、イワガキ養殖など、多種多様な漁業が営まれています。隠岐圏域の水産業の総生産額は県全体の約3分の1を占めています。
- ・ 大山隠岐国立公園に指定されており、国賀海岸、赤壁、白島海岸、浄土ヶ浦などの雄大な自然景観や、後鳥羽上皇、後醍醐天皇の行在所跡をはじめとする史跡や牛突きなどの地域特有の人文的資源に恵まれています。
- ・ 民間団体による「エコツーリズム大学」が開講し、隠岐の自然や歴史を活かした独自のエコツーリズムが注目を集めています。
- ・ 修学旅行の誘致により、民泊組織が設立され、田舎ツーリズム登録者数は県下最多となっています。
- ・ 隠岐の島町と海士町に高等学校があります。
- ・ 隠岐4町村は、広域連合により医療の確保を図っています。
- ・ 近年、各町村による様々な定住対策により、都市部から多くのU・Iターン者を受け入れています。
- ・ 4つの島が異なる自然、歴史、文化を有し、多様な特性を持っています。また、離島という地理的特性から、地域コミュニティが残り、それぞれの島に対する愛郷心が強く残っています。
- ・ 上記のほか、主な地域資源としては「地域資源活用促進法」に基づき認定された次のものがあります。
ケンサキイカ、アワビ、あごだし、黒木御所跡、赤ハゲ山、壇鏡の滝、ローソク岩等の奇岩など

（２）各市町村の総合振興計画等における将来像

○海士町：『自立・挑戦・交流』 ～そして確かな明日へ～ ※町政の経営指針

- ①立ち上げた新産業を着実に伸ばし雇用と定住の増大
- ②人間力に溢れた未来を支える人づくりの推進
- ③交流を通してネットワーク（海士ファン・応援団）をつくる
- ④人（健康）・自然（環境）・生活（文化）に配慮したサステイナブル（持続可能）な島へ

○西ノ島町：「将来に夢のもてるまちづくりをめざして」

島の自然・歴史・伝統・文化を大切に、住民と行政が協働の精神で力を合わせ、子どもから高齢者まで活力と安らぎある暮らしを目指し、島で生きること誇りのもてるまちをつくりまします。

○知夫村：「活力ある住みよい郷土・知夫村 ～交流によって「島の力」をひきだそう～」

定住人口の減少を補う交流人口の積極的導入によって村の経済社会的活力を高め、より幅広い世代の住民から構成される住みよい郷土をつくりまします。

○隠岐の島町：「まるい輪の中、心行き交う、やすらぎのまち ～みんなの手によるまちづくり～」

豊かな資源を共有する住民と住民、住民と来島者との交流をテーマとして、豊かで魅力あるまち、自立したまちをつくりまします。

（３）発展の方向

＜ものづくり産業の振興＞

- ・高度情報通信網を活用したコールセンターや、豊富な森林資源が活用できる木質バイオマス実証研究施設など、離島の地理的制約を克服できる企業等の誘致を図ります。

＜自然が育む資源を活かした産業の振興＞

- ・海のミネラルを含んだ「藻塩米」、収穫期の海風を利用した「ハデ干し米」など、特色ある農産物の生産振興に取り組みます。また、広大な放牧地を活用して生産される「隠岐牛」を地域団体商標登録し、肉用牛のブランド化を推進します。
- ・拡大する国内産木材への需要に対応し、木材の供給体制を整備するとともに、木材・木製品の島外への出荷を積極的に進めます。
- ・漁獲物の高付加価値化や鮮度保持技術の向上等の取組みや、ズワイガニ、イワガキ、エッチュウバイ（白バイ）などを「隠岐ブランド」として確立する取組

みを推進します。

- ・豊かな農林水産資源を活用し、海産物の加工や製塩などの分野で、健康食品や機能性食品などより付加価値の高い食品関連産業の創出を促進します。

<観光の振興>

- ・夏季（５月～１０月）を中心に団体旅行に過度に依存する観光から、個人・グループでも来島しやすい通年型・滞在型観光への脱皮を図ります。
- ・多様化する観光客のニーズに対応し、イカ釣り・地引き網・マリンスポーツ・高齢者の健康づくりメニューなどの体験や、民謡・舞踊・歴史文化等の活用による地元の人とのふれあいなどの交流によるテーマ型観光商品の充実を図ります。
- ・新鮮な魚介類や特徴ある土産品の提供など、「食」と「買い物」において、観光客の満足度を高めていく取組みを進めます。
- ・中海・宍道湖圏域と連携し、大山隠岐国立公園の特色ある自然を活かした観光商品の開発を推進するとともに、超高速船やフェリー、出雲空港からの入り込みに加え、直行便が就航している関西圏からの誘客を図るなど、観光客の誘致を進めます。

<産業基盤の維持・整備>

- ・地元受け入れ体制の強化等により体験・交流型観光事業を推進し、隠岐空港の路線の維持・充実に取り組みます。
- ・物資の輸送や人の輸送手段として、島の生活や産業を支える航路の維持・改善を図ります。
- ・高速情報通信網など情報通信ネットワーク環境の整備を進めます。

<その他>

- ・様々な交流事業により、都市部の若者や外国人などの来訪が増加しており、こうした外部との交流を経済活性化につなげる取組みを進めます。

3. 中山間地域における方向性

県土の約85%を占める中山間地域は、地理的・社会的な条件が不利な地域が多く、人口減少や高齢化により地域の活力が失われつつある地域や、中には人口流出が進み集落の存続さえ危惧される地域もあります。

中山間地域は、豊かな自然や伝統、文化、歴史に恵まれ、洪水や土砂の流出を防ぐ「国土保全機能」、生物を育み、水を浄化する「環境保全機能」、おいしい農産物を生産する「食料供給機能」、古くから伝わる祭礼、行事、風習等の「伝統文化」、四季折々に多彩な姿で心をいやす「自然景観」等の公益的・多面的機能を有しています。

中山間地域における活力の減退は、全国的な広がりを持つ問題であり、国家的な視点からの抜本的な施策展開が必要ですが、これと同時に、今後のあるべき社会システムを示していく上でも、島根が自らの創意工夫により、活力があり、安心して暮らすことのできる中山間地域の形成に向けて努力していくことが重要です。

(1) 中山間地域の課題と活性化の方向

中山間地域が抱える課題の中でも、喫緊に対策を講じる必要があるものについて、重点的に施策を推進する必要があります。

Ⅰ. 持続可能な地域社会の仕組みづくり

過疎化・高齢化により地域の担い手が不足し、地域社会の機能が低下しています。また、市町村財政が厳しいことなどにより、地域を維持する取組みを行政が従来どおりに支援していくことが困難になってきています。

このため、多様な主体の参画による集落を越えた新たな地域運営の仕組みづくりや、U・Iターンの促進による新たな担い手の確保、特に小規模・高齢化した集落の対策などに取り組む必要があります。

Ⅱ. 地域に活力を生む産業の振興

企業誘致等により多くの雇用の方が創出されてきましたが、中山間地域の大部分の地域では総じて雇用の方が少なく、若年層を中心として人口の流出が続いています。

このため、地域資源を活用した産業振興、農林水産業の担い手の確保・育成、都市との交流産業の振興などに取り組む必要があります。

Ⅲ. 日常生活を支える諸機能の維持

病院の診療機能の低下や、福祉施設、商店、金融機関などの統廃合や閉鎖、路線バスの廃止・縮小により、住民の日常生活に支障が生じています。また、医師・看護職員の不足や、携帯電話の不感地域の存在、地域の防犯機能の低下

などの課題があります。

このため、生活に必要な機能の確保、地域生活交通の確保などに取り組む必要があります。

Ⅳ．農林地等の地域資源の維持・保全

耕作放棄地や荒廃森林が多くなっており、中山間地域が持つ国土保全や水源涵養などの機能の維持が危ぶまれています。

このため、こうした農林地や空き家については、現状把握のための調査、都市との交流事業での活用や管理耕作、U・Iターン者や企業等による新たな活用などに取り組む必要があります。

(2) 地域特性に応じた施策展開

中山間地域は、地理的・社会的な条件によって状況は様々です。従って、中山間地域の活性化を図るためには、中山間地域を一括りにした画一的な施策展開ではなく、地域特性や実情に応じた施策を講じていく必要があります。

中山間地域の地理的・社会的条件などの特性を見極め、それぞれの地域に応じた施策展開を図ることが重要となることから、ここでは、その特性を3つの地域に分類した場合のそれぞれの方向性を示すこととします。

なお、実際には、歴史・文化・経済等の状況が様々であり、いくつかの地域分類の特性を併せ持った地域や、中間的な地域もあります。このため、実際の施策の展開にあたっては、それぞれの地域特性を分析し、実情に応じてきめ細かく対応することが必要です。

分類Ⅰ：広域的な生活圏の拠点地域とその周辺で、人口も集積している地域
～中山間地域にある市の中心部などが該当します～

<特性>

- ・医療・商業などの生活機能や生活基盤が整備されており、広域生活圏にある地域を支える役割が期待されます。

<施策の方向>

- ・都市機能の充実と近郊田園地域の一体的整備を図り、都市的な生活と農山漁村での生活の両方を満たす地域として内外にPRし、定住を促進します。
- ・地域産業の振興と企業の誘致を積極的に行うことにより、雇用の場を拡大し、若者を中心とした通勤圏内全域の定住を促進します。
- ・広域的な生活拠点として、日常生活を支える医療・商業等の機能の充実を図

ります。

- ・周辺地域との連携・交流を促進するとともに、集積している生活基盤の広域的な活用を可能とする基幹的な生活交通を確保します。

分類Ⅱ：日常生活の拠点となる地域とその周辺で、人口がある程度集積している地域
～町村の中心部や、旧町村の役場周辺などが該当します～

<特性>

- ・一定の生活機能を有しており、人口減少は進んでいるものの、担い手となる世代が残っており、「分類Ⅲ」の地域を支える役割が期待されます。

<施策の方向>

- ・生活機能や生活基盤が整備されている「分類Ⅰ」に該当する地域との間で、基幹的な生活交通を確保します。
- ・集落の機能が低下している「分類Ⅲ」に該当する周辺の地域を含む広域的な生活交通を確保します。
- ・医療や治安をはじめ様々な生活に必要な機能を、交通・交流・情報通信機能等を駆使しながら維持し、生活環境の確保・整備を図ります。
- ・都市住民が豊かな自然環境や伝統文化に触れる交流の促進や、地域資源を活用した産業を振興するとともに、基幹産業である農林水産業の活性化を図ります。

分類Ⅲ：日常生活の拠点から遠く、人口の減少・高齢化が進行している地域
～市町村の周辺部にある地域などが該当します～

<特性>

- ・人口減少・高齢化が進み、集落の機能が低下している地域で、地域を維持するため、「分類Ⅰ」、「分類Ⅱ」の地域との連携が必要です。
- ・この分類の中には、小規模・高齢化し、集落の機能が著しく低下している地域もあります。

<施策の方向>

- ・地域内外の多様な主体の参画を促し、集落を越えた広い範囲で住民の日常生活の維持を図るなど、新たな地域運営の仕組みづくりを進めます。
- ・住民生活に不可欠な機能を果たす拠点集落と、周辺地域を結ぶ生活交通等を、新たな交通システムの導入などにより確保します。

- ・従来の担い手に加え、地域住民や NPO、企業などが一体となった農林地の保全管理活動を推進します。
- ・この地域で脈々と受け継がれてきた伝統文化や風習等を記録・伝承していく取り組みを進めます。
- ・田舎ツーリズムなど、高齢者でもできる産業おこしに取り組みます。

(3) 総力を結集した施策の推進

中山間地域の活性化にあたっては、地域や市町村の自主的な取り組みを基本とし、地域住民、公民館や NPO、社会福祉協議会などの各種団体、市町村、県、さらには広範な県民等が密接な連携を図りながら、総力を結集して施策を推進することが重要です。

中山間地域に住む皆様や、この地域に関わりをもつ皆様には、様々な問題に対して関心を深め、女性や高齢者、U・I ターン者の視点なども大切にし、相互に協力しあいながら、創意工夫を凝らした地域活動を展開するとともに、こうした活動に積極的に参加・協力し、元気のある明るい地域づくりを進める必要があります。また、体験活動やボランティア活動に、都市住民等を積極的に受け入れ、地域活力の向上や公益的機能の維持保全を図ることが求められます。

河川の上流域に位置する中山間地域が有する多面的な機能が下流部に暮らす住民の暮らしを支えるなど、中山間地域とその他の地域は相互に補完・共生しあう関係にあります。島根では、こうしたことを様々な活動や学習を通じて身近に実感することのできる機会が増えつつあります。

県民の皆様には、中山間地域の存在意義を共有し、機会あるごとに、地球環境の保護など公益的な機能の保全についても都市の住民に情報発信するとともに、この大切な地域を共に守り、育んでいく活動にそれぞれの立場で力を発揮していただけることを期待します。